

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ビンズイ

Anthus hodgsoni hodgsoni Richmond, 1907

植田睦之（バードリサーチ）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 鳥類分科会



環境省 編

令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：植田睦之，2026. ビンズイ. 環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 786-790.

Citation: Ueta, M., 2026. *Anthus hodgsoni hodgsoni* Richmond, 1907. In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 786-790.

ビンズイ

Anthus hodgsoni hodgsoni Richmond, 1907

カテゴリー判定結果		準絶滅危惧 (NT)		①
基準 A: VU 未満	基準 B: —	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —
生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。 具体的には、分布域の一部において、次の傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 ①個体数が減少している。 【判断理由】 1990 年代と 2010 年代に実施された全国鳥類繁殖分布調査によれば、個体数が 40% の減少率で減少している。ただし、同調査による確認メッシュ数での比較では 26% の減少率であること、分布の中心域より周辺部で減少していることから、総合的に考えると、現時点では、VU には該当しないと判断した。				
評価分科会： 鳥類分科会				

概要

ビンズイは本州、四国以北の寒冷な森林、草原で繁殖し、南東北以南で越冬する。1990 年代以降、繁殖分布が縮小しており、特に標高の低い場所での減少が顕著だった。

基礎情報

【形態】

全長 147-163 mm、翼長 77-87 mm、尾長 26-64 mm、嘴峰長 11-12 mm、心臓長 20-22 mm、体重 16-30 g。

雌雄同色で、上面は緑褐色で、眉斑と耳羽にクリーム色の部分がある。下面はクリーム色で、黒い縦斑がある。

【生活史】

本州、四国以北の寒冷な森林、草原で繁殖し、関東以南では標高の高い場所に多い。冬期は南東北以南で越冬し、海岸のマツ林など低標高の場所にも多い。地上に草の茎などを使って 8-13 cm 程度の巣をつくり、20.5×15.4 mm 程の卵を 3-5 卵産む。抱卵期間は 12-13 日で、孵化後 10 日程度で巣立つ。

【生息環境】

寒冷な森林、草原で繁殖する。林床の開けた明るい林を好む。越冬期は海岸のマツ林など低標高の林床の開けた林に生息する。

生息環境区分：	【陸域_高標高地 中標高地 低標高地】裸地，森林，草地 【陸域_平地部 海岸部】森林
---------	---

国土地域区分：	(1) 奥山自然地域，(2) 里地里山・田園地域
---------	--------------------------

【分布域】

繁殖期は四国、本州以北に分布する。関東以西では比較的標高の高い場所に生息することが多い。越冬期は南東北以南に分布する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

1970 年代、1990 年代、2010 年代に実施されている全国鳥類繁殖分布調査では、1970 年代と 1990 年代を比較すると、198 メッシュと 202 メッシュでほとんど変わらなかったが、2010 年代には 150 メッシュと大きく減少していた。また、比較可能な現地調査の実施コースで比較しても、1168 コースから 99 コースと大きく減少していた。特に記録されなくなった場所は標高の低い場所で多かった。また、北海道と比べると東北以南で見られなくなったコースの割合が高かった。越冬期の分布については、東北地方や中部地方の内陸部や日本海側の分布がやや広がっており、積雪の減少で分布が広がっている可能性がある。

【生息地の現況】

近年、森林にはシカの増加で下草がなくなっている場所がある。ビンズイは下草の少ない明るい林を好むため、シカの摂食により、本種にとってはむしろ好適な生息地が創出されたと考えられている事例もある。

【個体数の現況】

全国鳥類繁殖分布調査の現地調査で記録された羽数は 1990 年代の 736 羽から 415 羽に

減少していた。東京都鳥類繁殖分布調査の結果では 7 羽から 11 羽に増加していた。これは生息地の現況でも述べたように、シカの影響で植生が変わった場所で新たに記録されるようになったためだった。また、モニタリングサイト 1000 里地調査では、2008-2022 年に年あたり-6.6%と減少が示されている。

存続を脅かす要因

関東以西では、もともと標高の高い場所に生息する傾向があり、2010 年代の調査では標高の低い生息地あるいは、北海道よりも東北以南で見られなくなった場所が多いように南で生息が確認されなくなった場所が多かった。これは気候変動の影響をうけている可能性が考えられた。

要因の区分：	(過去)	不明
	(現在)	気候変動，不明

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【群馬県】準絶滅危惧(NT)，【神奈川県】絶滅危惧Ⅱ類(繁殖期)，【愛知県】絶滅(EX)(繁殖)，絶滅危惧Ⅱ類(VU)(越冬)，【奈良県】希少種，【鳥取県】準絶滅危惧(NT)，【愛媛県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【高知県】準絶滅危惧(NT)，【熊本県】絶滅のおそれのある地域個体群(LP)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

鳥獣保護管理法

参考文献

- 長谷川新平, 1975. 繁殖を低める托卵<ビンズイ>. 羽田健三 (監), 野鳥の生活, pp. 129-133. 築地書館, 東京.
- 環境省自然環境局生物多様性センター, 2024. 重要生態系監視地域モニタリング推進事業 (モニタリングサイト 1000) 里地調査 2005-2022 年度とりまとめ報告書. 153pp. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田.
- 清棲幸保, 1979. 増補改訂版日本鳥類大図鑑Ⅱ. 講談社, 東京.
- 植田睦之・植村慎吾, 2021. 自然環境保全基礎調査 全国鳥類繁殖分布調査報告 日本の鳥の今を描こう 2016-2021 年. 176pp. 鳥類繁殖分布調査会, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Anthus hodgsoni hodgsoni has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Anthus hodgsoni hodgsoni* is listed as NT under criteria ①.

The species that is considered to be under increasing pressure for survival, as indicated by habitat status trends, specifically with the following notable tendencies in parts of its distribution that are likely to continue.

①The number of individuals is decreasing.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_High-altitude area, Mid-altitude area, Low-altitude area】 Bare area, Forest, Grassland 【Terrestrial/Freshwater area_Plain, Beach】 Forest
Threat types:	Climate change, Unknown
Law designation status for conservation	Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.



執筆者:	植田睦之（バードリサーチ）
Author:	Mutsuyuki Ueta

公表年月：2026 年 3 月